

平成27年10月4日
今週のベストショット



青松園B 新町パイレーツ 対 奈多フェニックス

優勝への負けられない試合で先制タイムリーを放つフェニックス実延新伍選手。

写真：新町ウインズ 安藤一步樹

雁レクD 我慢の展開となった塩浜ダービーを制したのは??

塩浜ジャガーズ	(4勝8敗)	040000	4	内田○-橋村
ソルトベスターズ	(1勝11敗)	200001	3	鶴野●-春田

盗塁：中村(健)(ソルト)

やや肌寒い秋晴れの中始まった塩浜ダービー。初回塩浜ジャガーズは、四球とエラーでノーヒットながら一二塁の先制のチャンスを迎えるも、続くクリーンナップがあえなく凡退して嫌なムードを残してしまう。一方ソルトベスターズは、ジャガーズ先発の内田投手より先頭の中村(健)選手がセンター前ヒットで出塁。盗塁と送りバント、死球で一死一三塁のチャンスに四番中村(耕)がセンター前へと弾き返し、見事四番の仕事を果たす。さらにセンターのエラーも重なり、ソルトベスターズが2点を先制する事に成功する。続く二回ジャガーズ打線をきっちり抑え、流れに乗りたいソルトベスターズ先発の鶴野投手だが死球、内野安打、四球で無死満塁のチャンスを与えてしまう。ここでジャガーズ九番岩崎選手がレフト前にタイムリー、続く一番竹尾選手もレフト前に連続タイムリー、さらにワイルドピッチと内野ゴロの間に得点を重ね一挙4点をもぎ取ったジャガーズが逆転に成功する。三回以降は両投手とも制球に苦しみランナーは出すものの、守備陣の活躍と我慢のチップングでゼロを重ねていく。そして最終回、ソルトベスターズ五番酒井選手が出塁し、一死二塁のチャンスに七番矢野選手がセンター前へ1点差に詰め寄るタイムリーを放つも、ホームへの送球中、一二塁間に挟まれてしまい惜しくもタッチアウト。ランナーが残っていれば、試合の行方も分からないところであったが最後のバッターが凡打に倒れ、試合終了。両チームとも多少のエラーはあったものの流れを変えてしまうような大きなミスはなく、非常に引き締まった試合となった。結果は4-3と1点差でジャガーズが逃げ切り、塩浜ダービーを制した。

(記事、写真：三苦フレンズ 御手洗文男)



両チームとも試合前にカメラ目線で・・・



ソルトベイスターズ先発の鶴野投手。



ジャガーズ先発の内田投手。



手堅くバントを決め、先制のチャンスを作った二番石井選手。



先制タイムリーを放つソルト四番中村（耕）選手。



反撃の口火を切るタイムリーのジャガーズ九番岩崎選手。



二回表、同点タイムリーのジャガーズ一番竹尾選手。



最終回1点差に詰め寄るタイムリーを放つも、挟まれてアウトになるソルト七番矢野選手。

奈多グラウンド 試合を分けたのは、安定した投手力

三友クラブ (6勝6敗) 0 6 4 2 0 1 2 足達○ー柿崎
奈多サンデーズ (6勝4敗2分) 1 0 0 0 3 4 土田●、塚本ー長濱

HR : 川上 (奈多サ) 2BH : 広瀬 (三友ク)

一回裏奈多サンデーズの攻撃は、先頭打者を四球、続く二番・三番が倒れ二死三塁とし、四番田中(俊)選手が右前へ技ありの適時打を放ち先制した。このまま奈多サンデーズがいつもの試合展開に持ち込むかに思えたが、今日はここから試合が大きく動いた。二回表三友クラブの攻撃は、今季初登板の土田投手の大乱調により、この回だけで5四球と連続WP等で進塁し、その中で一番柿崎選手の右前適時打、さらにこの回2打席目の六番清原選手の中前適時打等で一挙6点を奪った。さらに、続く三回表の三友クラブの攻撃は、復調の兆しが見えない土田投手をさらに攻め、この回も同様に得点を重ね、サンデーズはついにエース塚本投手へと交替したが、この嫌な流れは変わらず2安打ながらも四球や失策も重なりこの回4点を失った。四回表も三友クラブは攻撃の手を緩めずに、二番PH広瀬選手と四番中内選手の適時打で2点を追加し一方的な試合展開となった。五回裏、このままでは終われない奈多サンデーズの攻撃は、この回先頭の八番田中(孝)選手が打った左飛球が失策となり一挙に二塁へと進塁し、続く九番木下選手も右前安打で出塁した。この安打が実は今季初安打しかもバースデー安打であったことから、サンデーズベンチも盛り上がりを見せ、この勢いのまま打席を迎えた好打者の一番川上選手が左中間へ意地の3ランを放ち反撃したが、三友クラブ足達投手の序盤からの緩急をつけた安定したピッチングの前に、惜しくも後続が倒れて時間切れとなり、結果は12対4で三友クラブの大勝利となった。

(記事、写真：三苦ホーネッツ 永島貴文)



好投で魅せた三友クラブ足達投手。



一回裏、技ありの先制適時打を放つサンデーズ田中(俊)選手。



三回表、強烈な投直を放つ三友クラブ柿崎選手。



豪快なスイングの三友クラブ清原選手。



好守備を魅せた三友クラブ竹岡三塁手。



巧みな緩急でサンデーズ打線を抑えた三友クラブバッテリ。



ついに待望の今季初安打!! 奈多サンデーズ木下選手。



最終回、意地の3ランを放つ奈多サンデーズ川上選手。

青松園B フェニックス三番、四番で7打点快勝

新町パイレーツ	(6勝7敗)	000300	3	吉田●-桐島、山本
奈多フェニックス	(9勝1敗2分)	35100x	9	今林(勇) ○-実延(新)

3BH : 今林(英)、実延(新) **2BH** : 今林(英) 池見(奈多フ)

一回表、奈多フェニックス今林(勇)投手が新町パイレーツを三者凡退に抑えると、その裏ヒットと四球で出た走者を四番実延(新)が三塁打で返し続く五番今林(英)も二塁打で幸先よく3点を先制。二回も満塁のチャンスで四番実延(新)は押し出し四球を選び、五番今林(英)は走者一掃の中越え適時三塁打を打ち更に点差を広げた。どうにかしたいパイレーツは三回までパーフェクトに抑えられていたが、四回一死から二番八坂選手のセーフティーバントが決まり三番白岩選手は四球で一、二塁のチャンスに四番吉田選手だったが三振に倒れ五番山本選手はサードゴロ。しかしフェニックスの山村三塁手が一塁悪送球で1点を返す。六番佐々木選手がライトに2点適時打を放ち3点を返すが反撃もここまで。再び今林(勇)投手の前に打線沈黙。このままフェニックスが逃げ切り勝利した。(記事: 新町ウインズ 桐島司、写真: 安藤一步樹)



試合前あいさつ、よろしくお願いします!



パイレーツ打線を2安打に抑えるフェニックス今林勇太投手。



一回裏、左線へ先制三塁打を放つフェニックス実延新伍選手。



二塁打で攻撃の手を緩めないフェニックス今林英二選手。



立ち上がりは悔やまれるパイレーツ吉田投手。



二回裏、無死満塁で連続好守備のパイレーツ内野陣だったが・・・



四回表、チーム初安打を決めるパイレーツ八坂選手。



四回表、内野ゴロを捕球するフェニックス山村選手。



四回表、間一髪！ライト前タイムリーのパイレーツ佐々木選手。



内野フライを大事に丁寧に慎重に捕球するパイレーツ白岩監督。

青松園A レッド打線によるワンサイドゲーム！

レッドサンデーズ（5勝7敗） 5 2 3 1 1 1 2 砂場○ー荒口

ブルーマーリンズ（0勝12敗） 1 0 0 2 0 3 横山（祥）●、友重、横山（祥）、友重ー横山（健）

HR：江口（レッド） 桑野（ブルー） 3BH：神田、八島（レッド）

盗塁：江口、前田、川原、八島（レッド）、糸井、川口（ブルー）

初回からレッドサンデーズはブルーマーリンズ先発の横山（祥）投手の立ち上がりを攻め三番神田選手、四番八島選手、五番前田選手の連続適時打などで5点を先制。その後も安打、四球、相手の失策などで毎回のように得点を重ねていく。一方、ブルーマーリンズは一回裏五番糸井選手の内野安打による1点のみで、レッド先発砂場投手に苦しめられる。しかし、四回裏四番の桑野選手が右翼へソロ本塁打を放つと、走者を二塁に置き七番川口選手の適時内野安打で1点を返す。だが好投を続けるレッド先発砂場投手の前に、反撃もここまで。毎回の得点を挙げたレッドサンデーズのワンサイドゲームとなった。（記事、写真：雁ノ巣ライナース 明瀬 旭）



ブルーマーリンズ先発の横山（祥）投手。



一回表、先制のホームを踏むレッドサンデーズ江口選手。



レッドサンデーズ先発の砂場投手。



二回表、犠牲フライを放つレッドサンデーズ五番前田選手。



三回表、猛打賞となる三塁打を放つレッド四番八島選手。



四回表、ソロ本塁打を放つレッド一番江口選手。



四回裏、ソロ本塁打を放ったブルーマーリンズ四番桑野選手。

第23週編集後記

WSLの皆さん、こんにちは！

第22週、10月4日は4試合が行われました。

雁レクDの塩浜ジャガーズ対ソルトベイスターズ戦は、初回ソルトベイスターズは戻ってきた一番中村兄弟三男の健一選手がヒットで出塁すると、長男の四番耕一郎選手のタイムリーで幸先よく2点を先制したかと思っただのも束の間、二回表に五者連続で出塁したジャガーズが、一気に逆転。追いつきたいソルトベイスターズだったが、最終回のチャンスも1点差にまで迫るも挟殺プレーで同点ならず、4-3でジャガーズの勝利。この試合共に3打数1安打だった打率2位の橋村選手が0.520、4位の竹尾選手が0.500とわずかに打率を下げる結果だったが、共に最終戦で首位打者を狙う。

奈多グラウンドの三友クラブ対奈多サンデーズ戦は、サンデーズが四番田中（俊）選手のタイムリーで1点を先制するも、直後の二回表に来年を見据えた投手起用で先発したサンデーズ土田投手が四球を連発し、2安打で6失点。調子は戻ることなく続く三回途中でマウンドを降りる。代った塚本投手の力を以てしても一度傾いた流れを変えることは出来ずに今季最多の計12失点。三友クラブ先発の足立投手は現在首位打者のサンデーズ一番川上選手（0.552）に一発を喰らうも4安打完投で12-4と三友クラブの勝利。現在最多安打の三友クラブ柿崎選手は4打数2安打の18安打目で打率0.486とした。

青松園Bの新町パイレーツ対奈多フェニックス戦は、初回から優勝を争うフェニックス打線が連なり四番実延（新）選手、五番今林英二選手の連続長打で先制すると、三回で9得点。投げてはフェニックス今林勇太投手が四回に2安打で3点を失うものの完投で3-9とフェニックス勝利。フェニックス実延新伍選手は16打点として打点トップに立った。上位4チームで唯一試合のあった四位フェニックスがこの時点で暫定首位となった。この試合ベストメンバーではなかったが快勝したフェニックスは、次戦三友クラブとの最終戦を迎える。

青松園Aのレッドサンデーズ対ブルーマーリンズ戦は、初回レッド三番神田選手の適時三塁打で先制すると、四番八島選手の連続適時打などで一挙5点を先制し、昨年首位打者の一番江口選手のHRなど攻撃の手を休めることなく毎回得点の12得点。投げては今年先発で結果を出しているレッド砂場投手が完投の12-4でレッドの勝利。ブルーマーリンズ四番桑野選手の右中間へのHRは打った瞬間の一発だった。この試合3打数3安打のレッド八島選手は打率を0.500に乗せた。

10月11日は奈多、和白、三苦校区の運動会のため全試合ありません。運動会に出場する皆さんは怪我しないように顔晴って下さい！

10月18日は上位4チームでまたもフェニックス（最終）戦しか試合がありません。

ということは他の3チーム（ホーネッツ、ライナース、ウインズ）は3週間試合から遠ざかるということですね。

この影響がどう出るのか？

どのチームも万全の状態に臨んで下さい。

個人タイトルも気になりますね。